

令和元年度

第1回釜利谷協議会（8月16日開催）

議事録

<出席者> (委員) 釜利谷連合自治会長 小泉 啓治
湘南学院高等学校理事 鈴木 節夫
(学校) 校長 會田 勉
副校長 坂下 真人
教頭 松野 明
総括教諭 小曲 昭男 穂積 啓之 志賀 聡 角井 淳
佐藤 秀成 近藤 純子
書紀 原田 裕治朗

進行：松野教頭

1. 「釜利谷協議会」参加者紹介（松野教頭）

2. 開会

【校長あいさつ】

釜利谷高校クリエイティブスクール 11 年目となる。

杉田劇場での学校説明会へ 300 名近い参加者がいたなかで、中学 2 年生の保護者やまだ小学生の子どもを連れて学校説明会へ参加された保護者もいた。

今年度の入学定員は 238 名募集だったが、270 名の受験者がおり定員割れを回避できた。今年の 1 年生向けのアンケートでは、中学 3 年 10 月の段階で釜利谷高校を第一希望としている生徒が 60% もおり、他のクリエイティブスクールを含め、クリエイティブスクールを第一希望とする生徒が増えてきている。その理由は、テストがないなど消極的な理由だけでなく、昨日の学校説明会の参加者の傾向を含め、ある一定の期待感を持ってクリエイティブスクールを選んでいる生徒が増えてきているのではないだろうか。それにともない、我々はその期待感に答えるべくカリキュラムの考え直しを行っていかうと思

3. 部会報告

○地域協働部会（近藤総括教諭）

資料 p.14~

今年度も「学校の特色を深め、地域に根ざし地域に開かれた学校づくりの推進を図る」を目標に実施してきた。

二回目の釜利谷協議会を、文化祭の日に実施したいと考えている。本来 3 回行うもので、夏と春はできるものの冬場に行くことができない。文化祭の日に生徒の様子を見てもらいながら釜利谷協議会を行えば、時期的にもちょうどよいと思われる。

・地域懇談会

文化祭の一般公開の日に、自治会長に生徒の様子を見てもらえたら良いと考えている

・地域貢献デー

通常の LHR で行っていた掃除を、昨年度から文化祭後に実施した。ボランティアを中心に掃除を行ったところ、飲み物のカップなど、文化祭で出たであろうゴミが多く見受けられた。

・学校へ行こう週間

今年度からは、実施日を学校で決めることができるようになった。例年通りの時期に実施する予定である。(その後 11 月 11 日～15 日に決定)

・釜高祭

昨年度は地域の方 4 名から出展いただいた。今年度も協力をお願いする。

・釜利谷サポートチーム

昨年度まではサポートチーム参加者の減少があったが、今年度は生徒数が減っているものの 1 年生の参加者が多く見受けられた。釜利谷高校を第一希望にしている生徒が増えている影響なのかもしれない。学校説明会での生徒による発表など、活躍できる機会を作っていきたい。

・学校説明会

アンケート結果からは、在校生の話が良かったとコメントがあった。

(鈴木理事)

生徒会との絡みがどうなのか。

(近藤総括教諭)

サポートチームは特色・地域連携グループが所管しており、校内外のボランティア活動に参加している。生徒会とサポートチームの両方をやっている子もいる。

(鈴木理事)

他の生徒にどういうことをやっているのかが、なかなか伝わらないのがもどかしい。

(小泉自治会長)

地域と高校の関係は、小学校や中学校に比べなかなか関わりを持ちにくい。地域と高校双方の課題なのかと思う。

○学校評価部会 (小曲総括教諭)

資料 p17~

クリエイティブアンケートについてであるが、クリエイティブスクールとして 10 年を経過したためアンケートの内容を一部変更している。その関係で、グラフの番号とアンケートの番号が一致していないところがある。

P21 問 5「入学したかった」と回答している生徒が、8割を超えている。一昨年度より増えている。「学校に何を期待しているか」という質問では、いろいろな取り組み、少人数での学習をしているという点で、積極的な理由で入学してきている。「ノートや提出物など」では、例年とあまり変わりはないがしっかりと取り組んでいると思われる。「部活に入っているかどうか」では、28%と少ないと思われる。部活動を途中退部するなど継続できないというところは課題である。

(鈴木理事)

部活に入らない理由は、経済的な理由なのか。

(小曲総括教諭)

中学時代は入部していたが、高校ではアルバイトをしないとなかなか続けることができない。

(佐藤総括教諭)

野球部を例にすると、バットやグローブを購入するのに費用がどれくらいかかるのかという保護者の質問がある。

(角井総括教諭)

母子家庭などの関係もあるが、アンケートの結果を見るとアルバイトをするから部活をしないというわけでもないと思われる。

○SLS 部会 (志賀総括教諭)

資料 p26~

平成 28 年度くらいから部活動加入率は減少傾向にある。生徒総会で昨年度から各部の活動を全校生徒に紹介させている。生徒が続けられない面もあるが、教員の指導がないと続けられない部活もある。各部の人数を見てみると、サッカー部は昨年度の途中から人数が 11 名を超え活動を再開した。吹奏楽部は、比較的にな人数が集まりやすく活動をしている。

球技大会について、ここ数年暑い日が続いている関係で、気温が高い場合は中止も視野に入れ今年度も行ったが、気温も低く行うことができた。

釜高祭について、土日に実施することで生徒や教員の負担も大きいことから、今年度は金曜日と土曜日で実施(土曜日のみ公開)させていただいている。スローガンを決め行っている。

生徒会について、生徒会役員は、教員からリーダーシップの有無などの潜在能力がある生徒に声をかけ、立候補をしてもらい、メンバーを決めている。

生徒支援について、保健室より検診の結果を載せている。身長が県及び国平均より低く、体重が平均より高い。喫煙防止教育、部活動を含めた安全教育や AED 講習、エイズ性感染

症防止教育などを行っている。特にエイズ性感染症防止教育については、保健師さんと助産師さんと綿密な打ち合わせをして行っている。すでに出産を終えている生徒もいる関係もあり、それに対する話もしてもらっている。スクールカウンセラーは、1日7時間の中で、家庭的な悩みなどを含め、多くの相談を受けている。スクールソーシャルワーカーは、発達障害、自閉障害などの生徒の支援を行っている。こういった生徒の支援を行うことで、学校としてもいい評価につながると思われる。多文化教育コーディネーターは、外国につながる生徒が増えた関係で、進路指導など多くの場面で関わりを持ってもらい担任と協力をしてもらっている。図書館利用状況についての解消のためには、教科担当が生徒に本の紹介をしたり、生徒同士での情報共有をしたりすることで増えていくと思われる。

(鈴木理事)

補助金、予算的な面は県から出ているのか。

(志賀総括教諭)

生徒支援についての予算等は県から出ている。特に国語の取り出し授業では、語彙が少ない関係でなかなか意味が伝わらないことがある。話している言葉と書いている言葉が必ず繋がるとは限らないことがわかってきている。就職活動をしている生徒に外国とのつながりのある生徒がおり面接等が心配である。

(鈴木理事)

部活動顧問の参加はどうか。

(志賀総括教諭)

教員の人事異動の関係もあるが、若い教員が生徒と一緒に活動している部もあり、専門競技に関係なく指導に当たっている現状である。

○学力向上部会（角井総括教諭）

資料 p.36~

クリエイティブスクールの目標にもなるが、多くの可能性を秘めながら、十分に力を発揮しきれなかった生徒に対してということで、主に学習面の理解ができていない生徒に対し学習意欲を高め基礎学力や社会性を身に付けられるように取り組んでいる。

具体的な取り組みとして、公開研究授業で「生徒が主体となる授業づくり」という主題で進めている。昨年度までは「生徒が参加する授業」としていた。今年度は、教科を超えた他教科でのグループを4つ作り、11月19日に向けグループごとに計画している。

学び直しとしての取り組みは、1年生のチャレンジ&ベーシック、2年生ベーシックコースのみの一般常識&ベーシックⅡのように、小中学校の学び直しをメインにした授業を行っている。令和4年度より学習指導要領が変わるのに伴い、内容を変えていくか検討中で

ある。

体験活動では、1年生より総合的な学習の時間が総合的な探究の時間になり、生徒が自ら課題設定をして調査研究をして解決をしていく。

サマーセミナーでは、9講座を開講した。数年前では、学校での学習内容に関わらず行っていたが、生徒には学校の内容でないと参加意欲がわからない傾向があったため内容も学校の勉強に関する内容になっている。

土曜教室では、年26回の予定で行っている。今年度は、大学生講師の応募が2名(本校卒業生)しかなく、数学と国語を教えてもらい、英語に関しては本校教員が教えている。

学校外の学修の単位認定では、技能審査13名のみで就業体験の申請はなかった。

新教育課程編成については、令和4年度からの実施に向けカリキュラム開発グループ内でプロジェクトチームを組み情報収集と準備を行っている。教育課程説明会では、令和3年の6月には教育課程編成書を提出する予定である。総合的な探究の時間では、現在の体験活動をうまく編成できないか考えていく。

現在の教育課程についての教員アンケートでは、チャレンジ&ベーシック、一般常識&ベーシックⅡについて意見があり、その年その年の生徒に合わせる教科のため担当者の負担が大きい。その他多くの意見について議論をしたところで、第2回を8月22日に行う予定である。学習指導要領が変わる関係で、どのように学び直しを行っていくかを考えていく必要がある。

(小泉自治会長)

釜利谷高校の学び直しのやり方を、新学習指導要領などに必ずしも従わなければいけないとは思えない。従うとしても、釜利谷高校らしさを重視した方がいいと思う。

(會田校長)

限りなく学習指導要領に近づければいいと思うので、釜利谷高校らしく行えればいいと思う。

○SSE 部会 (穂積総括教諭)

資料 p.57~

今年度1年間の予定として、8月21日に職員希望者向けの研修会を scMap の横山さんをお願いしている。

1学期終了後の報告として、クラスの雰囲気づくりを目的として体育館での活動と教室での活動を通して実施した。1年生は「SSEについて」、2年は「怒りを鎮める」、3年は「問題解決」をテーマに行った。以前は身に付けたい10のスキルとしてWHOが提唱しているものがあったが、今年の3年生から生徒向けに身に付けたい3つの力として、「よく考えて動く」、「ストレスと付き合う」、「お互いを理解し合う力」というように変えて、年次進行で行ってきた。

いじめアンケートについて、生徒に記名用紙を自宅で書けるようにし、翌日以降担任に直接渡すようにしていた。回収率は悪かったが、例年の傾向として書いていないだけの可能性もあるが 1 年から学年が上がるにつれ徐々に少なくなっている。いじめについて、生徒にも知らせている。

遅刻指導について、例年と比較して今年度の 1 年生は遅刻指導の対象者が少ない。3 年生は逆に例年より多い。また、欠席遅刻の平均を見てみると、確実に増えている事がわかった。

○キャリア部会（佐藤総括教諭）

資料 p.61 ~

大学短大進学者が 14 名いるが、昨年と比べると数として半減している。理由については不明である。専門学校は 70 名前後で例年通りである。就職は 80 名が就職した。縁故で就職した生徒もいたが、学校を通して就職した生徒は 70 名前後で例年より少し多い。

今年度の就職希望は、70 から 80 名いたが実際に会社見学に行っている生徒はまだ少なく、これから行く生徒もいる。中にはすでに公務員試験を受けている生徒もいる。

各学年のキャリア教育について、1 年生では職業人インタビューを夏休みの課題として行い、2 年生では分野別のガイダンスを行い、3 年生では分野別のガイダンスをより詳しく行っている。

校外学習への参加推進について、仕事の学び場というタイトルで、専門学校でどういった勉強ができるのかを知るための活動があり 7 名参加した。インターンシップへの参加もしている。例年より 1 年生の参加者が多かった。

（鈴木理事）

大学進学が半減しているが、絞り込みの影響があったのか。

（佐藤総括教諭）

絞り込みはあったが、一般受験の生徒があまり少なく指定校推薦が厳しくなった気がする。中には、生徒の自信の無さが影響しているのかもしれない。

（鈴木理事）

就職希望者の就職率はどうか。

（佐藤総括教諭）

希望者が諦めさえしなければ 100%の就職率である。9 月の 1 回目の入社試験で 7 割が内定、残りの 3 割のうち数名は学校の指導から離れていくが、指導にのってくる生徒は卒業までに全員が内定を勝ち取っている。

○入学者選抜および選考基準（穂積総括教諭）

資料 p.65～

今年度の1年生の倍率は1.13倍、募集定員は238名となり昨年度より募集定員が減っているが、適正な募集定員になっていると思われる。旧学区比較では、昨年度より横浜中部南部地区が増え、横三地区は減っている。

選考基準については、すでに公表されているが令和2年度より変更した。関心意欲態度の値を60点満点とし、ABCの点数も変更しCを0点とすることが大きく変わった。面接は25点、自己表現が15点、合計100点としている。特色検査についての内容は変更なし。提出書類も変更なし。

○全体を通して校長より

今回の協議会では、貴重な意見と共に勇気をいただいた。私自身クリエイティブスクールはチャレンジする学校だと思っているため、失敗してもいいから新しいことに挑戦する意識が大切だと思っている。本校は職員に恵まれている。いろいろな事が出来ると思うので、挑戦していきたい。一方、働き方改革のこともあるので、我々職員が新しい発想を持ってやっていけたらと思う。

第2回の釜利谷協議会を、文化祭2日目の11月2日に実施し、3回目を年明けに行いたいと思うので、またご連絡させていただく。

読みやすさを考慮して表現については加筆や修正をしている箇所があります。ご了承ください。